





三葉のうらみあ  
 むるに友を  
 せを厭も  
 よむむはひ  
 るて体のつ  
 葉とあふ  
 小ちか減る

女織  
 天竺  
 手業  
 草

式

哥  
 磨  
 子  
 筆





蚕三度の  
休乃後業を  
するの場

次身小大にをり  
まはしく穿たるを  
糸の竹茹す乃  
このようそ業の  
糸を別製とす  
いふなり



哥之庵









女織蚕糸業草

大眠記して  
後糸の糸と  
製糸する所

大眠記して後  
糸と糸をまきつへ  
糸を糸の糸と  
糸を糸の糸と  
糸を糸の糸と  
糸を糸の糸と  
糸を糸の糸と  
糸を糸の糸と



哥  
糸  
業



卷中を以て作

孝子と云

廣くあとの類々

振<sup>し</sup>采<sup>さい</sup>あとのおとを  
い

ひさりゝるを垂て

弓を押し出す

中

張克勤

しん  
しん

ふふを  
つを

三

まゝ

元亨

抽を

簇

5

哥磨筆





玉れ襦を  
着る

七

族物

よりお時飛の  
とれ玉とあやうで  
ふそくうり約  
嫁乃蝶小なり  
おれ牡丹をそ  
にして紙襦  
玉へ紙こ子を  
着せりあり  
これとこまきと  
いふ

哥磨筆





女織 天竺紫草

八

蚕糸を吐く  
蝶にまじりて  
飛居

うしろを  
金織と  
いふる

哥麿筆





卷八





女織蚕糸業草

十

糸織を  
振る

糸織を  
振る

糸織を  
振る

糸織を  
振る

糸織を  
振る

糸織を  
振る

糸織を  
振る

糸織を  
振る

糸織を  
振る

糸織を  
振る



哥林多筆





1873

1873

1873



蚕乃神を奉る

軒遇突智埴山

姫小遊

推産蚕を

産此神の

紀子蚕と

育せり

色り故小

日本にて

雅美矣

糸乃乃紀

糸乃乃紀

人皇二十

雄略天皇

神后み

娘蚕一

帝女は后

西渡氏と

也

也

也

也

也

也



哥麻呂筆





女織  
糸手業草

十二終



哥磨筆

